

平成 18 年度第 4 回「愛知県の新しい都市計画の枠組み構築に関する委員会」 会議録

開催日時：平成 19 年 3 月 19 日（月） 午後 4 時から午後 6 時まで

開催場所：メルパルク名古屋 2 階 「平安」

出席者：（委員）

奥野委員長、海津委員、片木委員、後藤委員、清水委員、竹谷委員、林委員、
山本委員（8 人）

（事務局）

鵜飼都市計画課課長はじめ関係職員

（市町村関係者）（7 人）

（傍聴人）（5 人）

（報道関係者）（1 人）

<文責事務局>

1．開会

2．議事

（1）第 3 回委員会での指摘事項と対応

（2）提言素案の検討

- ・「愛知の新しい都市のあり方」について
- ・「都市計画区域再編の基本的方針」について
- ・「都市計画区域マスタープランのあり方」について
- ・「土地利用計画のあり方」について

3．その他

4．閉会

【主な発言要旨】（順不同）

「愛知の新しい都市のあり方」について

今でも日本人だけでなくたくさんのいろんな方が住んでいるわけだから、「多様なコミュニティを育む都市をめざす」は、「多様性を受容するコミュニティ」として、トレランス（寛容）という意味合いを強く出した方が良いのではないか。

都市づくりの基本方向の順序としては、「交流によるダイナミズムを生み出すモビリティの高い都市をめざす」と「分担と連携による機能的な都市をめざす」を入れかえた方がいいのではないか。

「分担と連携」だと同じ言葉が二つ並んでいるように感じるので、きちんと機能を特化させながら分担、連携を図っていくという意味を示した方がよい。中心階層的な発想を入れて連携を保つという意味であるから、例えば、「特徴ある階層中心とその補完、連携」としたらどうか。

「機能的な都市」というのは、高度成長時代的な言葉として今の時代には合わないのではないか。また、「都市の基本方向」とうたっているので、「都市をめざす」は要らないと思われる。「分担と連携による機能的な都市」には「社会的負担と環境負荷を小さくしつつも豊かな生活」というような意味合いの言葉が必要ではないか。

「交流によるダイナミズム」と「モビリティ」をひとつにすると唐突に感じる。域内においては交流によるダイナミズムを生み出す、国際化に関してはモビリティを高めるという意味だと考えている。「モビリティ」というのは一般的過ぎて、抽象的ではないか。

「日本・世界をリードする産業集積が進む力強い都市をめざす」では、量的な集積ではなく、自ら質的な革新をする力を持つという意味合いが必要であると思う。

「分担と連携による機能的な都市をめざす」では、「分担と連携」だけでは焦点がぼけてしまうので、「機能の分担と連携」として、それぞれの都市だけですべての機能を充足するのではなく、その機能の役割分担をはっきりさせて、互いに連携させていくということを明確に表現した方がよい。

都市づくりの基本方向の修飾語部分がカットされており、基本理念の概念図の意味がよくわからない。それがわかるようにしないと、かえって漠然としたイメージになる。

都市計画の基本理念としては、都市計画をこういうふうにしていくという姿勢が見えた

方がいい。それには、「都市あるいは地域の多角的な成長・発展」という言い方をするのがよいのではないか。それぞれの都市・地域が、それぞれの特性を生かし、それぞれの指標に応じて、成長・発展していくという都市のあり方をはっきり示した方が良いと思う。

「多元」という言葉は、一般の県民には分かり難いと思われる。また、「成長」という言葉には反発が出てくるなど今の計画には使えない。「発展」という言葉ならまだ使えると思う。

都市づくりの基本理念の概念図では、「都市」の持つ二つの面を全て「都市」という言葉で表しているのが分かり難い。つまり、「安全で快適な都市」や「コミュニティを育む都市」というのはひとつの都市を対象としているが、「モビリティの高い都市」や「分担と連携による機能的な都市」という場合には、個々の都市の問題ではなくて、それを含まう少し広い範囲を対象としている。その辺りをもう少し整理する必要がある。

今、地域を基盤とした地域づくり、コミュニティづくりは非常に大事であるが、一方で、その中の社会的排除というものが課題にもなる。コミュニティを大事にしながらも、その中で多様性を相互に受け入れて共生していくようなコミュニティをつくっていくことが大きな課題になっている。

都市計画の基本理念として「多様なコミュニティを育む都市」というのは、多様性を容受するコミュニティをつくるために、一定程度のハードを含めた施策を行う意味で書いてあるのか、それともこの基本理念が一般的なまちづくりという意味の基本理念なのかによって多少言葉の使い方が違ってくると思われる。

一つのコミュニティがいろんな特徴を持っていることはもちろん大事だが、一方で一つのコミュニティがいろんなものを受け入れる受容性を持っていることも非常に大事であるので、「多様なコミュニティを育む都市」はそこが伝わるように工夫して頂きたい。

「愛知の新しい都市のあり方」は、都市計画あるいは都市計画区域を考える上での前提

にはなるが、ここで書いたことすべてが都市計画で解決できるものでもない、あるいは、都市計画ですべてを対象とするものでもないと考えるので、誤解のないようにしていただきたいと思う。

「愛知の新しい都市のあり方」は、いわば県土の一つの大きな指針である。

「都市づくりの基本理念」としては、新たに都市をつくり直すという姿勢や方向性が見える言葉遣いをすべきだと思う。

「分担と連携」について「効率と成長から凝縮と充足へ」のようなことが一般的によく言われる。「縮」というと嫌悪感を持つ方がいるので、そこを「凝集」にして、「空間の凝集と生活の充足を目指す」のようにしたらどうか。

大学の教員は、機能の意味でも「空間」という言い方をするなど「空間」をよく使うが、一般の人には理解不可能だと思われる。

「都市計画区域再編の基本的方針（都市計画区域等指定範囲の検討（STEP 1））」について

額田地域については地元の見解や都市計画区域に対する期待を県の原案の中で、弾力的に2段階で記述しているので、これで良いのではないかと。

他の地域についても、これからの人口の減少過程を考慮すると、都市計画区域の網をかぶせるよりも、どうやって農林業生産と集落を確保していくかという視点の方をむしろ重視していく必要があるのでは、原案通りが良いと思う。

「都市計画区域再編の基本的方針（都市計画区域再編の検討（STEP 2））」について

名古屋市は人口が多くて吸引力が非常に大きいので、名古屋市を中心とした日常生活圏は、現在の市域よりもかなり広がっていくのは自然だと思う。

三河の山間地域は何か特別な配慮が要るのではないかと気がする。日常生活圏として空間的に離れた大きな集積地とつながっているので、そういう配慮を少し述べるとい

いのではないか。

スケールの大小という点では、今後の道州制を踏まえると、都市あるいは地域の計画は緩やかに区切っておいた方がやりやすいように思う。

日常生活圏とはいいながら、A案は県民の日常の都市活動をより重視したものであるのに対し、B案の場合はそれに行政サービスを加えたというイメージになっている。A案とB案の違いがもう少しはっきりと打ち出せないものなのか。

今後、愛知県下でそれぞれの地域がどういう発展の方向があるかということを考えて、最終的にこういう都市計画区域割りが望ましいとならないと、過去から現在までのイメージがついてまとう。これからそれぞれの地域がどっちを向くのか、どこにより大きなポテンシャルがあるのかということをごどこかに述べておく必要があると思われる。

これぐらいの人口規模は都市計画区域として必要ではないのという議論はやればいいが、客観的な根拠があるわけではないからやりづらいという感想である。

都市生活的なサービスというのは、人口30万から50万人ぐらいの間は、人口1人当たりの施設数が少ないという意味で一番効率的だという研究が随分ある。

この区域再編によって、今後県が行政サービスなどを誘導していくこともあるのではないかと。地域バランスを図り、より地域住民に対して効率的なサービスができるなどのような目的があるとすれば、B案はある程度工夫されていると思う。

C案は産業連携を強化した案とあるが、これは流域圏になっていると思われる。産業はむしろ東西に流れているわけで、どうも少し違う気がする。

高齢化を迎え、医療圏というものが非常に施設配置論としては大事になっているという気がするので、県行政は何がやれるかという誘導型の配置計画論からいけば、やはりB案でよいと思われる。

新城が東三河でひとつの括りの中に入ってしまうと、三河山間部の人たちにとってはもう少し遠いところまで行かないと行政サービスが得にくくなるという問題が生じるのではないか。そこに何らかの配慮をしてもいいのではないかと思われる。

特に知多半島の実態を考えて、医療や福祉サービスを重視すると、A案よりはB案の方が納得いく。

名古屋市という大都市や岡崎市、豊田市のような中核都市がある中で、各地域の住民の方々の暮らしをどう守っていくかということが基本であると思われる。

道州制に関しては、内閣で3年以内に検討を始めるということもあり、まだまだ少し先の話と考えていいと思われる。

高齢社会の中、各地域の暮らしをどうしていくかというところがやはり基本になると考えられ、医療・福祉圏に配慮したB案を本委員会としては区域再編案として提言する。